

志の実現に向けて 12

はじめに

7月中旬に入りました。学校の裏側は自然が広がっています。そのため、いろいろな生き物の生息に気づくことがあります。この時期の生き物といえばカエルです。どこからともなくカエルの鳴き声が聞こえてきます。カエルの鳴き声はオスのメスに対する求愛行動とのことです。また、カエルは縁起の良い物として大切にされています。お金や運が自分のもとにかえてくる、ということで、店先や玄関にカエルの置物を置いているところもあります。

「2023年度入試を振り返る」について

「河合塾 Kei-net」に、「2023年度入試を振り返る」として2023年度入試の概況がまとめられていました。以下は、その概要をまとめたものです。なお、今回は、「私立大学の概況」についてです。

■ 私立大学の概況

◇ 志願者・合格者とも減少

私立大の志願者は前年比96%と減少しました。方式別にみると、大学入学共通テスト方式に比べ、一般方式は前年比95%と減少が目立ちました。大学入学共通テストの少数教科受験者が減少するなか、大学が公表した入試結果の集計では大学入学共通テスト方式の減少率が低く抑えられたのは、国公立大併願者が増えたためです。一方、一般方式では国公立大併願者は変わらず出願していたものの、私立大専願者では出願数が減少していました。このため、一般方式では減少したようです。

合格者数は前年比98%と5年ぶりに減少しました。一般選抜から学校推薦型・総合型にシフトする大学が増えており、一般選抜全体が縮小傾向にあります。

なお、二期入試では合格者数を大きく減らしています。志願者が減少していることもあり、二期入試で入学者を集めるより、一期入試の受験者から補欠合格、追加合格で入学定員を充足させる大学が増えているようです。

全体の志願者数は減少しましたが、個別の大学をみると志願者の増減がみられました。志願者が増加した大学をみると、前年度入試で志願者が減少した反動で増加した大学が多くみられます。一方、志願者減少大では志願者の減少が続く大学がみられています。

〔国公立大学入試 一般選抜の入試結果〕

	志願者数		合格者数		倍率(志/合)	
	2023	前年比	2023	前年比	2023	前年比
全体	3,060,295	96%	1,083,315	98%	2.9	2.8
一般方式	2,032,540	95%	656,817	96%	3.1	3.1
共通テスト方式	1,027,755	98%	426,498	102%	2.5	2.4
一期	2,866,523	97%	1,028,250	99%	2.9	2.8
二期	193,772	89%	55,065	82%	3.2	3.5

◇ 合格率は上昇

難関大学でも競争緩和は進んでいます。次の表は首都圏の難関大学等の成績層別の合格率を今春と3年前の2020年度で比較したものです。早慶上理では、とくに偏差値60以上の成績層の合格率がアップしています。MARCHでは偏差値55～60未満の成績層の合格率が36%と、3年前から13%もアップしています。日東駒専では偏差値50～55未満の成績層の合格率のアップが目立っており、3年前の合格率が39%だったのに対し、今春入試では60%と受験者の半数以上が合格しています。

□ 早慶上理

受験者の成績層	合格率			
	2020		2023	23-20
65以上	53%	→	61%	+8%
60～65未満	23%	→	30%	+7%
55～60未満	10%	→	15%	+5%
50～55未満	3%	→	7%	+4%
45～50未満	3%	→	4%	+1%
45未満	2%	→	4%	+2%

※ 早稲田、慶応義塾、上智、東京理科

□ MARCH

受験者の成績層	合格率			
	2020		2023	23-20
65以上	72%	→	77%	+5%
60～65未満	49%	→	60%	+11%
55～60未満	23%	→	36%	+13%
50～55未満	7%	→	16%	+9%
45～50未満	2%	→	5%	+3%
45未満	1%	→	2%	+1%

※ 明治、青山学院、立教、中央、法政

□ 日東駒専

受験者の 成績層	合格率			
	2020		2023	23-20
65 以上	82%	→	83%	+1%
60～65 未満	77%	→	86%	+9%
55～60 未満	59%	→	76%	+17%
50～55 未満	39%	→	60%	+21%
45～50 未満	23%	→	40%	+17%
45 未満	14%	→	23%	+9%

※ 日本、東洋、駒澤、専修

□ 関関同立

受験者の 成績層	合格率			
	2020		2023	23-20
65 以上	80%	→	86%	+6%
60～65 未満	63%	→	73%	+10%
55～60 未満	41%	→	56%	+15%
50～55 未満	19%	→	36%	+17%
45～50 未満	6%	→	16%	+10%
45 未満	2%	→	5%	+3%

※ 関西、関西学院、同志社、立命館

□ 産近甲龍

受験者の 成績層	合格率			
	2020		2023	23-20
65 以上	67%	→	71%	+4%
60～65 未満	75%	→	71%	-4%
55～60 未満	67%	→	71%	+4%
50～55 未満	46%	→	59%	*13%
45～50 未満	27%	→	42%	+15%
45 未満	11%	→	24%	+13 %

※ 京都産業、近畿、甲南、龍谷

◇ 実学志向がみられる

下の表は学部系統別の志願状況をみたものです。文系の各系統では軒並み志願者が減少したなか、「経済・経営・商学」系統は前年比 100%となり、受験生の実学志向がみられました。一方で、不人気が続く国際系は今春も志願者が減少しました。理系では「理」「農」系統で堅調な人気を示しており、文低理高の傾向がみられます。「工」系統は全体では志願者は減少しましたが、分野別でみると人気に差が出ました。

[私立大学 学部系統別の志願状況]

私立大学 全体	文・人文	教育	文化・教 養・他	社会・国際	社会	国際関係・ 他	法・政治
96%	93%	90%	85%	95%	96%	95%	91%
法・法律	経済・経 営・商	芸術・スポ ーツ科学	理	工	通信・情報	材料・物 質・資源	農
89%	100%	94%	100%	97%	93%	115%	103%
獣 医	医・歯・ 薬・保健	医	歯	薬	看 護	生活科学	総合・環境・ 情報・人間
124%	96%	104%	96%	96%	90%	80%	100%
環 境							
104%							

◇ 実学志向がみられる

2021・2022 年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響で、受験生の地元志向が顕著でした。2023 年度は各地区とも地元の大学を志望する受験生の割合はがダウン、首都圏または近畿圏を志望する受験生の割合が高まりました。とくに北陸地区や中国・四国地区で近畿圏を志望する動きが目立っています。

「オープンキャンパスの申込期間」について

この夏は多くの大学でオープンキャンパスが予定されています。現段階で判明している「オープンキャンパスの申込期間」に係る情報です。参加を考えている場合は、忘れないようにしてください。

京 都 大 学	大 阪 大 学	神 戸 大 学	広 島 大 学	九 州 大 学
7月19日(水)～	受 付 中	受 付 中	7月14日(金)～	7月19日(水)～